

西宮応急手当グループと協働で「にしのみや市民祭り」に参加

平成 22 年 8 月 21 日(土)午後 1 時～8 時 30 分に亘り、「第 35 回にしのみや市民祭り」が西宮市役所中央フェスティバル会場周辺で開催され、多くの市民や団体が参加しました(当局発表当日来場者数 40,100 人、出展ブース数 46 団体)。

日本防災士会兵庫県支部は、西宮応急手当グループと共同で「ふるさとブース」を設置し、各種のイベントを行いました。多くの方に来場を頂き、好評を得ました。



だんじりも参加して賑わう会場周辺(岸本会員撮影)

[主な展示内容など]

防災士会及び防災士活動パネル写真・パンフレット展示による防災士の活動広報
防災関連パンフレット(10 種類、気象庁提供)展示と説明
救命措置(「心肺蘇生法」と「AED 使用法」)体験コーナーにおける指導講習
非常食(アルファーマ、100 食分)の配布及び試食会の実施
アンケート調査の実施と粗品配布など

[来場者の人数など]

「兵庫県防災士会・西宮応急ブース」には、大人 154 名、子供 67 名の 221 名(1 時間当たり約 30 名)の方が来場されました。4 割以上の方が家族連れで来場されました。このうち、60 名の方がアンケート調査に協力して頂きました。

[展示ブースの状況]

展示ブース内では、防災士と救命指導員の方々が来場者に熱心かつ丁寧に汗だくで対応して頂きました。何枚かの写真で紹介させていただきます。



兵庫県防災士会・西宮応急手当グループ展示ブース全景



救急措置体験コーナーは大変な盛況(岸本会員の説明に耳を傾ける子供達)



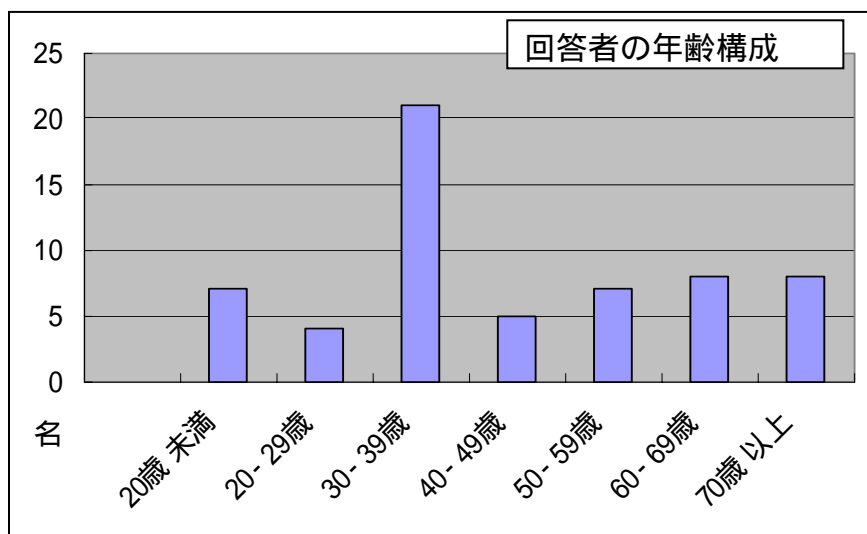
救命措置の体験コーナーには来場者が絶えなかった(体験を終わった後の補足説明)

[アンケート調査結果など]

アンケート調査には、大人の来場者 154 名のうち 60 名が協力していただき、回答率は約 40% でした。このうち男性 16 名、女性 44 名で、夏休み中の土曜日であったこともあり 70% 以上が女性でした。

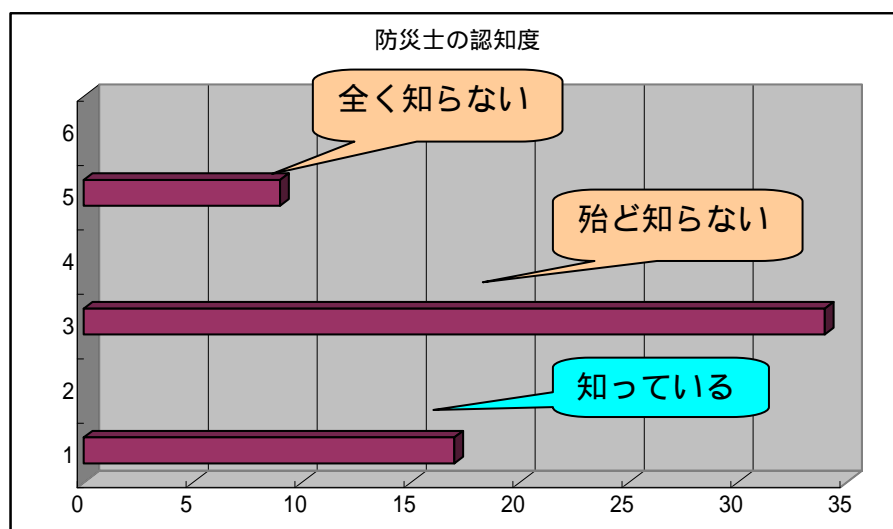
回答者の年齢構成

60 名の年齢構成は次の図に示すとおり、30 代が 21 名で 35% を占めている。この年代の女性の来場者が圧倒的に多いのは、幼稚園から小学生低学年の子供さんと一緒に来場され、アンケート調査に熱心に協力して頂いたものと考えられる。



防災士の認知度

「防災士」とはどんなに人達かご存じですか、との質問には、知っているは 17 名 (28%) であり、残りは殆ど知らない (34 名)、全く知らない (9 名) であり、防災士の認知度は極めて低いことがわかる。地域に密着した広報活動の必要性が認識される。



活動意欲

「兵庫県支部会員」は地域の皆さんと防災・減災活動に取り組んでいます。あなたも一緒に活動しませんか、との質問には、50名から回答があり、35名(70%)の人が「活動したい」と答えている。潜在的に活動意欲の高い人が多くいることが判る。今後は、啓蒙・勧誘活動によりこれらの人々が仲間になって一緒に活動できるよう働きかけていく必要がある。

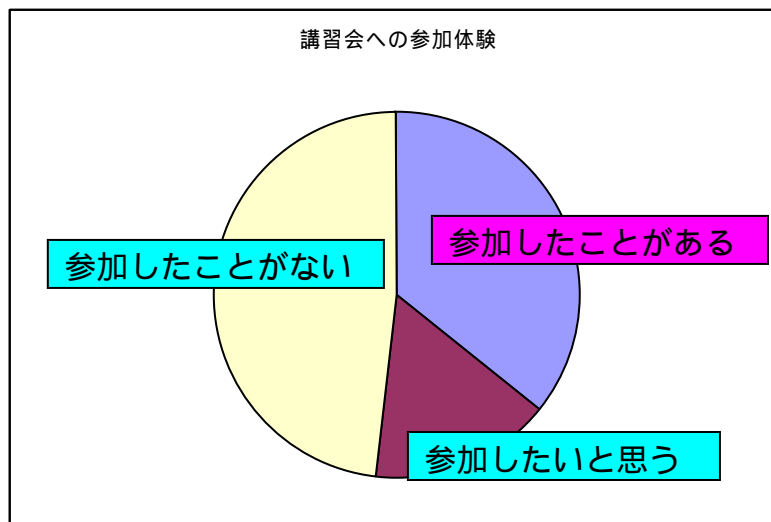
展示ブースへの来場理由

「防災士会・西宮応急手当グループ」のブースに来場された理由を聞いたところ、57名から回答を得た。「興味があったから」と「面白そうだから」と目的を持って来場している人が85%を超えており、救命措置(「心肺蘇生法」と「AED使用法」)体験に対する関心度の高さが伺える。残念ながら防災士の活動パネルや震災関連パンフレットへの興味・関心度はそれ程高いとは言い難い状況であり、PR方法を考え直す必要がある。

来場理由	人数
興味があったから	37
面白そうだから	12
ただ何となく	8

救急・救命講習会への参加経験

過去に、救急・救命講習会に参加した経験の有無などを聞いたところ、56名から回答得た。体験者は20名(36%程度)であり、参加したいと思っている、9名(20%弱)と参加したことがない、27名を含めると64%の人が体験をしていないことが判る。今後とも継続した活動が必要と考えられる。



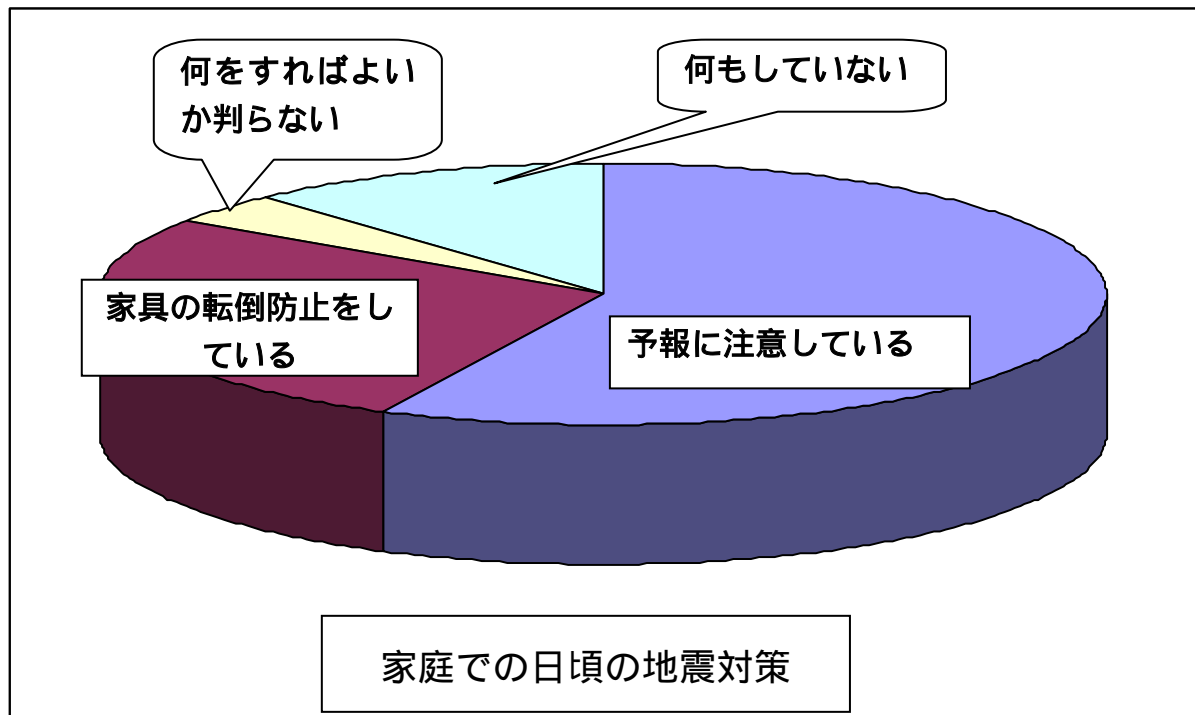
今回の体験の有無

「本日の体験」の有無を聞いたところ、29名から回答を得た。24名が「体験した」、5名が「体験していない」と答えており、実際の体験者とアンケート回答者が別人となっているものと考えられるが、回答者の80%以上の人々が体験されたことになる。

地震対策など

大地震の発生予測確立が高まっているが、家庭で日頃心がけておられる内容を聞いたところ、複数回答を含めて77件の回答を得た。「予報に注意している」が44件(57%)、「家具の転倒防止をしている」が21件(27%)であったが、相当数の家庭が「何もしていない」または「何をすればよいか判らない」という状態であることが判る。

地域での自主防災組織や地域コミュニティにおいて、日頃からの減災に対する啓蒙活動をさらに積極的に進めなくてはならないことが防災士活動に求められている。



[おわりに]

今回の活動は、応急手当グループと共同ブースで実施したが、応急手当グループによる心肺蘇生法やAED使用法の体験コーナーに多くの来場者の関心の高いことが判り、今後の防災士会の活動に大いに参考になった。防災士会のコーナーにおいても、日本防災士会及び気象庁大阪管区気象台からのパンフレットの提供などにより、来場者に興味を持って頂けるようにと考えたつもりであったが、あまり効果があったとは言い切れない状況であった。今後の活動計画の立案に生きたものとしていきたい。

最後に、兵庫県支部会員11名(泰地、有元、山北、宇津江ご夫妻、岸本ご夫妻、田中、永原、栗田、石塚)及び郵便局長9名を始め、多くの皆様に準備から当日の運営、片付け迄お世話になりました。猛暑の中にもかかわらず、快くご協力を賜り誠に有り難うございました。心より御礼を申し上げて報告とさせていただきます。

(文責:兵庫県支部阪神ブロック事務局 石塚 幹剛)